

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：32415

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17304

研究課題名(和文)「こころの専門家」の誕生 沖縄県における1980年から現在までの医療人類学

研究課題名(英文) The Birth of Psy-Professionals- Medical Anthropology of Okinawan Situation between 1980 and present

研究代表者

東畑 開人 (TOWHATA, Kaito)

十文字学園女子大学・人間生活学部・講師

研究者番号：30747506

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：「こころの専門家」とは何者か。彼らはいかなる来歴を持ち、社会の中でいかなる機能を担い、そして社会にいかなる変化をもたらしてきたのか。1980年から現在までの沖縄県での「こころの専門家」の誕生とその発展の歴史を記述することを通して、「こころの専門家」が文化の網の目の中でいかにして専門職として成立するのかの人類学的な理論モデルを生成した。それはベックのいう「第2の近代化」に即して、国家と学術団体が制度面と人材養成面で主導的な役割をはたすことで成し遂げられたものである。今後は諸外国との比較を行うことで、制度面での不備をいかに市場というアクターが補うのかを検討していく。

研究成果の概要(英文)：What are the psy-professionals? This research aims to articulate their careers, their social functions and the change which they provide. The anthropological model which describe how psy-professionals were born in the context of cultural mesh is presented through the description about the history of them in Okinawa. According to the second modernization which Beck pointed, psy-professionals were made by the nation and academic community. Therefore, by the international comparative study, examination on how market could complement the defect of system is the further problem.

研究分野：臨床心理学

キーワード：臨床心理士 公認心理師 医療人類学 臨床心理士養成大学院 沖縄 家裁調査官 児童相談所 スクールカウンセラー

## 1. 研究開始当初の背景

「日本社会においてこころの専門家とはいかにあるべきか」。この問題は戦後に再出発した日本の臨床心理学が当初から問い続けて、現在も確定的な解を得ていない問題である。それは具体的には資格問題となり、激しい論争を引き起こしてきた。1970年に日本臨床心理学会はこの問題で躓き、その後は複数の民間資格が乱立する事態となり、現在は国家資格化を巡って再度喫緊の問題となっている。この問題に対して、臨床心理学の各学派がそれぞれに自己像を呈示してきたが、いずれも欧米でのありようを理想とする理念像であったがゆえに、臨床心理学内部ですらコンセンサスが作られないままに現在に至っている(河合,1992;下山,2001)。一方、社会学も「心理学化」「心理主義化」をキーワードとして批判的議論を行ってきたが(Lieff,1966;森,2000)、理論的志向が強く、現状から乖離したものとなっている。

この問題の中核は、「こころの専門家」と文化との関係にある。そこで、臨床心理学の輸入から70年経た現在、筆者はこの問題に従来とは異なる問い方をすべきと考えた。このとき、視座を臨床心理学の外側に移す必要がある。その視座から、「こころの専門家」と「非こころの専門家」の境界線がどのように移行してきたか、つまり両者の活動領域がいかに重なり合い、いかに弁別されてきたのかを検討することで、「こころの専門家」の輪郭を描くことが可能になると筆者は考えた。それは「公認心理師」というあらたな国家資格ができた今喫緊の課題である。

## 2. 研究の目的

以上より、本研究は「こころの専門家」をひとつの治療文化として捉えうる医療人類学の視座から研究を行うこととした。その上で、著名な臨床心理学者の生涯の歴史を追うのではなく、社会史の観点から「こころの専門家」が社会にどのように登場し、社会をいかに変化させ、「こころの専門家」がいかなる位置づけを得るに至ったのかを検証した。本研究では文化との関係を精緻にモデル化することが目指されるため、日本全体のマクロな歴史ではなく、ミクロな地域におけるローカルヒストリーに注目した。

以上を踏まえたうえで、本研究では、比較的歴史が浅いため第1世代が存命であり、実証的で包括的な調査が可能であることユタの存在など治療文化の多様性が確保されており、治療文化間の相互作用を観察し、「こころの専門家」を相対化するのに好都合であると考えられる沖縄を選択し、そこで心の専門家の歴史を人類学的方法で分析することとした。

要約する。「こころの専門家」とは何者か。彼らはいかなる来歴を持ち、社会の中でいかなる機能を担い、そして社会でいかなる変化をもたらしてきたのか。それは臨床心理学の根幹的な問題であるが、従来は各学派の理念

像が呈示されるに留まり、その実態を実証的に明らかにする作業はなされてこなかった。本研究は医療人類学に基づいて、この問いに新しい解をもたらす。具体的には、1980年から現在までの沖縄県での「こころの専門家」の誕生とその発展の歴史を記述することを通して、「こころの専門家」が文化の網の目の中でいかにして専門職として成立するのかの人類学的な理論モデルを生成する。

## 3. 研究の方法

本研究は人類学的なフィールドワークを基本にして、インタビュー調査、アンケート調査、公文書調査などのマルチメソッドで調査を行った。具体的には以下の通りである。

### 【研究A】誰がこころの専門家になったのか？誰がならなかったのか？

『初期臨床心理士会メンバーの全数インタビュー及び「非臨床心理士」のインタビュー』  
すでに行われた予備調査によって、沖縄県で最初に心理職として活動し始めたのは、1980年ごろであり、その前後のメンタルヘルス業界の状況を詳細に明らかにした。このとき、沖縄県臨床心理士会の最初期メンバーに全数調査を行い、彼らの背景および活動について明らかにした。加えて、「臨床心理士資格」成立にあつて、資格を取得せずに従来と変わらずメンタルヘルスの仕事を続けた人々にもインタビューを行った。以上を通して、沖縄県における最初期の「こころの専門家」の輪郭を専門家集団の内側から明らかにした。

### 【研究B】社会はこころの専門家をどのように受容し、位置づけたか？

『公的機関関係者インタビュー、および公的資料(報告書・紀要・記事)の収集と分析』  
調査Aでは「こころの専門家」自身に調査を行い、内側から実態を描くのに対して、調査Bでは社会の側からの位置づけを検討した。問われたのは、「社会はこころの専門家をどう認知し、受容したのか」という問題である。そのために、本研究では、当時の医療・教育・司法・福祉・大学などにおいて、「こころの専門家」がいかに位置づけられていたのかの調査を行った。具体的には当時の「こころの専門家」の人員配置や社会・経済的待遇という制度の歴史を追うこと、病院長や教育相談所所長など当時の関係者へのインタビュー、およびそれらの機関が発行している紀要・報告書・便り等の収集と分析を行った。加えて、1980年から1995年にかけて、沖縄のメディア(新聞・雑誌・テレビ等)で「こころの専門家」がいかに取り上げられてきたかを分析した。以上の調査によって、沖縄社会において「こころの専門家」がいかなる位置づけを持って、社会に根を張っていったのかを明らかにした。

### 【研究C】2016年、社会は「こころの専門家」をいかに受容したのか

『マーケティングリサーチを応用した市民

向けアンケートと公的資料の収集』

心の専門家によって、社会がいかに変化したのかを明らかにすることを目指した。現在に至るプロセスで、社会の側の「こころの専門家」受容にいかなる変化が生じたのかを明らかにする。具体的には研究B同様、この期間の「こころの専門家」の待遇、各機関での公的文書、および新聞・雑誌などのメディアを精査し、1995年時点との比較を行った。

調査Bとの違いは、現在のことを明らかにしようとするものである。大規模なアンケートによって、社会の「こころの専門家」受容を測定することが可能であることである。そこで本研究ではマーケティング・リサーチの方法を応用して、沖縄県において「こころの専門家」がいかなるイメージを持たれ、いかなる需要を抱かれ、実際にいかなる心理援助が一般人になされているのかを明らかにするアンケート調査を行った。

#### 【研究D】 「こころの専門家」の誕生をモデル化する 医療人類学的分析

研究ABCによって収集された資料を基に、1980年から2016年までの「こころの専門家」の歴史を、「こころの専門家」内部の視点と社会という外部の視点の二つから包括的に叙述を行った。

重要なことは、沖縄のローカルヒストリーを記述することを超えて、普遍的なモデルを生成することが本研究の目的となることである。だからこそ、研究の最終段階では他の都道府県や海外などと比較することで、「こころの専門家」の理念像が文化との相互作用でいかに変質するのかを理論モデル化した。特に医療人類学者Kleinman (1981)の「治療システム論」を参照し、「こころの専門家」を文化に規定される職能集団として再定義することを目指した。

## 4. 研究成果

### (1) 心の専門家の歴史

本研究を通じて、心の専門家が特定の地域でいかにして普及したのかについてのローカルヒストリーを描き出した。

原初は戦後に大学の心理学科を卒業した若者たちに始まる。その時点では心の専門家の訓練はなかったが、アメリカ型精神医学と児童福祉が広がっていく中で、すでにアメリカでは標準となっていた多職種連携を達成するために、少しずつ雇用が始まる。彼らはほぼ専門的訓練を受けていないため、1970年代に導入が始まったロジャースの心理療法論に基づき実践を行うが、制度的にも、実践的にも厳しい状況に置かれてきた。

そのような中で、徐々に沖縄県外で訓練を受けた心理士が帰沖して、人的ネットワークや訓練制度が整っていく。その中心にあったのは、国立大学であり、その教員が中心となって、県内の様々な公的機関に人員を派遣し、研修を行い、メディアで発言するなどして、心の専門家の普及を図っていく。そこに

私立大学も関与するようになり、徐々に心の専門家は広く認知されていく。しかし、実は、現時点においても心の専門家は公的機関に雇用され、公的資金でその収入が賄われている(この点は特にデイケアで顕著)。市民レベルでプライベートに心の専門家に相談するという文化はいまだ醸成されているとは言い難い。公認心理師とはそのような土台に立って、設定された資格だと言える。以上の論点については著書「日本のありふれた心理療法」(誠信書房)に反映した。

### (2) 心の専門家をめぐるアクター

以上の歴史からわかるように、心の専門家は基本的に自生的に発生したわけではなく、国家プロジェクト、あるいは公権力による制度設計の結果として生じたものである。この点が欧米とは大きく異なる点である。

医療・福祉・教育領域で、心理的ケアが不可欠なものとして設定されることで、そこで機能する専門家が必要とされることになった。これは特に1970年代以降、いわゆるベックが「第2の近代化」とよぶ社会の変化が始まる時期に顕著になる。すなわち、社会や共同体によるケアが十分に機能しなくなる中で、それでも労働力を機能させるために、「心」という要因が浮かび上がってくるのである。したがって、そこに予算が与えられ、制度が整備されていくことになる。

この社会からの要請を、学術団体、特に「大学」が引き受けて、心の専門家の養成が行われていくことになる。

したがって、心の専門家を巡る第1に重要なアクターは国家であり、第2に学術団体となる。そして、それらを下支えするものとして市場の動向がある。しかし、たとえば企業はそこには積極的な関与を為してはならず、そこはむしろ民間の自己啓発などがカバーする範疇となってきた。この点は「野の医者 は笑う」(誠信書房)にて詳述した。

### (3) 心の専門家養成の問題

以上を鑑みると、心の専門家の養成機関は極めて重要な役割と機能を果たしている。すなわち、いかなる人材を社会に供給するのかを彼らが規定することになるからである。

実際に、国立大学が地域の心の専門家の主要な供給源となり、しかも彼らが専門家職能団体のマネージを行っており、広報や啓発を行っている。それゆえに、国立大学の人事が、その地域での心の専門家の方向性を大きく規定していくという、非常に大きな権力を与えられていることが明らかになった。

しかし、一方で、それらはより中核にある学術団体の意向を反映した人事に、これまではなってきたため、心理職としてのアイデンティティは比較的なまとまりをもったものとして成立してきたという事情もある。

今後はそれらの権力がより分散していくことが考えられるため、その養成のメカニズ

ムと権力関係についてイギリスの場合との比較を行った。その成果は「心理療法家の人類学 こころの専門家はいかにしてつくられるのか」(翻訳書)に示されている。

## まとめ

以上より明らかであるように、本研究は「公認心理師」という新たな国家資格の制定と運営を考えるうえで、非常に重要な知見を提出したと言える。それらは今後アジア諸国で心の専門家が成立していくことを鑑みるに、国際的にも重要な知見になると考えられる。

本研究では「市場」というアクターが十分に吟味されなかったが、それは実際にその影響力が必ずしも大きくはなかったからであろう。そのため、現時点での心の専門家制度の不備を、今後市場が以下に修正しうるかを検討していくことが課題となる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 15 件)

2018 東畑開人・森田健一・加藤亮介. 内面に介入する現代高等教育に生じる困難について 学生相談知へのニーズ 学生相談研究, Vol.38(2) pp.109-120. 査読有

2018 東畑開人. 「ふしぎの国のデイケア その6 - 人と構造」. 精神看護 Vol.21(4). 印刷中 査読無

2018 東畑開人. 「ふしぎの国のデイケア その5 - ケアする人とされる人」. 精神看護 Vol.21(3). Pp289-294. 査読無

2018 東畑開人. 書評「心理療法のひろく未来」. 「こころの科学」日本評論社. Vol.198 Pp.108. 査読無

2018 東畑開人. 「ふしぎの国のデイケア その4 - 戦争と平和 後編」. 精神看護 Vol.21(2). Pp.192-196 査読無

2017 東畑開人. 「ふしぎの国のデイケア その3 - 戦争と平和 前編」. 精神看護 Vol.21(1). Pp96-100. 査読無

2017 東畑開人. 「ふしぎの国のデイケア その2 - 専門家と素人」. 精神看護 Vol.20(6). Pp562-566. 査読無

2017 東畑開人. 「てらぺいあ 壕の冷たい床とカウンセリング室の冷たい壁」. 精神療法 Vol.43(6). pp816. 査読無

2017 東畑開人. 「ふしぎの国のデイケア その1 - 「いる」と「する」」. 精神看護 Vol.20(5). pp458-461. 査読無

2017 東畑開人. 「民間療法と臨床心理学」. 臨床心理学 17 巻 4 号 pp.112-113. 査読無

2017 東畑開人. カウンセリングって本当に役に立つの? ヨロコビの魔法とカナシミの時間. こころの科学増刊号「薬に頼らない精神医学 実践編」 pp.52-60 査読無

2016 東畑開人. 書評「精神病と統合失調症の新しい理解: 地域ケアとリカバリーを支える心理学」. 臨床心理学. Vol.17(1). 査読無

2016 東畑開人. もしも SMAP のマネージャーが伊藤絵美の「ケアする人も楽になるマインドフルネス&スキーマ療法」を読んだら. 精神看護. Vol.19. No.6. pp.70-73 査読無

2016 東畑開人. 霊から心へ-心理療法を医療人類学的に再考する. 心理臨床学研究, Vol.34(4) pp.365-376 査読有

2015 東畑開人. 「オモテとウラ」の裏 日本語臨床概念再考. 心理臨床学研究 Vol.33(4) pp.345-356 査読有

[学会発表](計 5 件)

2017 東畑開人・前川由未子. 精神的不調に関する援助要請と原因帰属, メンタルヘルスリテラシーの実態. 日本心理臨床学会第36回大会, 横浜 2017.11

2017 MAEKAWA, Y. TOWHATA, K. Effect of problem attribution on help-seeking intention: Difference between self or partner suffering from mental problem. 15th European Congress of Psychology, Amsterdam, Holland. 2017.7.

2016 TOWHATA, K. Cultural Transformation of Psychotherapy with On-Demand Sessions. Third International Conference On Counselling, Psychotherapy And Wellness And The 4th Congress Of SithCp3 - ICCP Bangalore, India.

2016 東畑開人・渡久山朝裕. 「心の専門家」にとって資格とは何か - 「臨床心理士」成立前後の時期に着目した医療人類学的研究. 日本心理臨床学会第35回大会, 横浜

2015 TOWHATA, K. How has Psychotherapy been transformed in Japanese Society? A Medical Anthropological Perspective, 9th World Psychotherapy Conference Asia, Kuching, Malaysia. 2015.9

[図書](計 3 件)

2018 James, Davies 著 東畑開人(監訳) 心理療法家の人類学 こころの専門家はいかにして作られるのか 誠信書房

2017 東畑開人. 日本のありふれた心理療法 ローカルな日常臨床のための心理学と医療人類学 誠信書房

2015 東畑開人. 野の医者とは何か 心の治療とは何か 誠信書房

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:  
発明者:

権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

東畑 開人 (TOWHATA, Kaito)  
十文字学園女子大学 人間生活学部 人間  
発達心理学科 専任講師  
研究者番号：30747506

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

##### (4) 研究協力者

( )

渡久山 朝裕 (TOKUYAMA, Tomohiro)  
前川 友未子 (MAEKAWA, Yumiko)